

## 女子部

### 女性研究者の託児利用のあれこれ

国立情報学研究所 坊農 真弓

みなさん、朗報です。3月に京都大学で開催される第77回情報処理学会全国大会に託児室が設置されるそうです。設置にあたり、全国大会実行委員の方から「学会等の託児サービスの利用経験」について問合せを受けました。私はちょうどそのころ、湘南で開催された職場の若手交流セミナーに託児室を設置してもらっていました。そこでの経験を踏まえ、いろいろと情報提供することができました。

託児利用初体験だった私は、娘が慣れない土地で初めて会う保育士さんと仲良くやれるのか心配で仕方ありませんでした。しかし、当の本人はそんな心配どこ吹く風で、優しい保育士さんと目新しいおもちゃや絵本を存分に楽しんだようです。娘は、セミナーの休憩ごとに顔を出す、心配で仕方ない私に、折り紙で作ったアクセサリやハロウィンの飾りをプレゼントしてくれました。そんな娘に私は、「なんてお利口さんなの?」と目尻が下がりはなしてました。

こんな託児利用を経て、最近は「学会に娘を連れて行くキャンペーン」を1人で展開中です。以前、地方で開催された国内会議に生後半年の娘を連れて行ったことがありました。私は会議に出ないと行けないので、その間は母にホテル部屋で娘を見てもらっていました。その当時の私には会議主催者に託児サービスの提供を検討してもらおうという考えがまった

くありませんでした。すると、そんな私の姿を見て、同じ会議に出席していたアドバイザの先生が、「これからもどんどん赤ちゃんを会議に連れてきて、その大変さをここにいる全研究者に見てもらったらいい」とおっしゃいました。実際にこのアドバイスをいただいたときには、「頻繁に授乳できず乳腺炎で高熱が出るし、持参したおむつと衣類は大量だし、母の交通費もばかにならないし、こんなに大変な子連れ出張二度とできない」と思っていたので、正直何を言われているのかわかりませんでした。しかし、このアドバイスこそが「学会に娘を連れて行くキャンペーン」の原点になっています。あれから数年経った今、あのとき先生にいただいたアドバイスは、「いかに大変かをまず世の中に知ってもらわないといけない、そして、育児を個人の問題としてこそと解決してしまうのではなく、みんなで一緒に考える場を持つべき」という主張だったと理解しています。

お子さんをお持ちの、男女問わない研究者のみなさま。皆さんのお子さんが、遠出が身体的に負担にならない3歳半くらいになったら、学会に連れて行ってみませんか。学会に子供がいたら、一体何が大変なのか、どういうサービスが必要なのかが見えてくるんじゃないかと思います。

### 新しい学会参加の取り組み

先日 WISS2014 (インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ) という学会に参加してきました。WISSは2泊3日の泊まり込みの学会で、朝から夜中(ナイトセッションやミッドナイトセッション)までセッションがあり、参加者同士で密に議論できる学会です。

最新の研究発表が行われるだけでなく、学会の場自体もよりインタラクティブにしていく試みを行っている学会です。たとえば、参加者同士がチャットを使って発表に関する議論ができたり、夕食の席を決めるシステムがあったり、ニコニコ動画を使って、会議の様子を生中継したり。毎年さまざまな取り組みがなされています。そんな中今年、iPresence社のテレプレゼンスロボットが導入されました。遠隔地にながら、学会の発表が聞けるだけでなく、自由に移動できるので、デモ会場を見に行ったり、参加者ともコミュニケーションがとれるのです。

(株) シンクフェーズ 辻田 眸

最近は発表の様子を動画中継する学会も増えていて、実際に会場に行かなくても、発表を聞くことができるようになってきました。子供がまだ小さく、制約のある私のような人にとっては、ありがたい試みだと思います。ただ動画中継の場合は、単に発表を聞くだけになってしまい、学会参加者とのコミュニケーションが困難でした。その点テレプレゼンスロボットは会場を自由に動き回れ、参加者ともコミュニケーションがとれるので、バッテリーなどの問題もありますが、より参加している感覚を持てるのではないかと感じました。

子供が小さいと、海外や遠距離の学会は不参加になりがちです。託児所を併設してくれる学会もありますが、子供を連れての移動等を考えると、個人的にはあまり利用できていない状況です。なのでこういったロボットなどの導入より、学会参加の選択の幅が広がるのは大変ありがたいと思います。さまざまな学会で普及してほしいなと思います。